

第157回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成22年4月1日(木) 11:00~12:30

2 開催場所 宇都宮グランドホテル会議室

3 委員の出席 委員総数 8人  
出席委員数 6人

(1) 出席委員の氏名 青木 敬信(委員長)  
早川 富美子(副委員長)  
片岡 真理  
片山 貴之  
古磯 勝子  
森内 律子

(2) 欠席委員の氏名 岡田 好弘  
島田 恭子

(3) 放送事業者側出席者 神野 俊彦(代表取締役社長)  
池田 喜一(取締役放送部長)  
佐藤 望(放送部部长代理)  
平沢 友幸(放送部)

4 議題 (1) 正副委員長の互選  
(2) 番組の試聴及び意見交換  
(3) その他  
(4) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 正副委員長の互選

第9期放送番組審議会委員として8名の委員を委嘱するとともに、出席委員により正副委員長の互選を行い、委員長に青木敬信氏、副委員長に早川富美子氏を選出した。

第9期の委員は、以下のとおり

青木敬信、岡田好弘、片岡真理、片山貴之、古磯勝子、島田恭子、早川富美子、森内律子

(2) 番組の試聴及び意見交換

3月6日(土)の18時55分から20時55分に放送した「JBL公式戦 リンク栃木 BREX 生中継 SPECIAL」について、試聴と意見交換を行った。

事業者 この番組は、エフエム栃木とメディアパートナーを結んでいる本県のプロバスケットチーム「リンク栃木 BREX」主催ゲームを生中継で放送した特別番組であり、バスケットボールのゲームを生中継するのは、FM放送初の試みです。

番組では、白熱した試合中継のほかに、ゲストトークやリポーターによる観客の生のレポート、音楽などをミックスし、バスケットボールファンのみならず、臨場感溢れたエン

ターテイメント性の高い番組構成としたところです。

実況アナウンサーは「加藤じろう」(フリーのスポーツアナウンサー)、BEX ベンチリポーターは「井出文恵」(エフエム栃木アナウンサー)が担当しました。

### 【 番組の試聴 】

委員 県内にプロのバスケットボールチームがあることが、あまり知られていないのではないかなと思うが、素晴らしいチームがあることを知ってもらいいい機会になったのではないかな。

バスケットボールの試合をFMで初めて生中継するという事で、チームプレーでスピード感のある試合をどのように放送するのか興味があったが、放送を聴いて、2時間という長時間番組で、かつ、レポートや音楽をミックスさせながら生放送することの大変さを感じた。

リスナーに試合会場の臨場感を伝えるとともに、バスケットボールに関心のない人々に興味を持ってもらうまでにするには大変な工夫が必要なのだなと感じた。

アナウンサーの声や話し方については、会場の歓声や音楽とダブってしまって、バスケットボールに興味のない人には聴きづらかったのではないかな。しかし、プレーに対するコメントやスピード感はよく伝わってきた。リポーターは、明るく爽やかな雰囲気を出していた。

委員 FM初の試みとして、こうした番組にチャレンジしていくことは、大変いいことだと思う。

スピードのあるプレーをどのようにアナウンスするのか興味を持って聴いていた。プレーの全てを実況するのはとても困難なことであると思うが、プレーの状況が映像としてなかなかイメージできなかった。

地方のスポーツを盛り上げるためには、メディアとの関わりが必要であると思われ、今後とも、積極的に支援し継続していってもらいたいと思う。

場内のレポートについては、リポーターの明るい感じが伝わってきて、盛り上がっている雰囲気を十分に伝えていたと思う。

委員 当日は車の運転中にこの番組を聴いていたが、選手がどんなパフォーマンスをしているのかなどプレーの状況を明確にはイメージできなかった。しかし、現場でラジオを持って聴いていれば、プレーの細部まで分かりやすかったのではないかなと思う。

リスナーにラジオを持って会場に足を運ぶよう勧めれば、一体感が生まれ、より試合会場が盛り上がるのではないかな。

放送局として新しい試みにチャレンジしていく姿勢には大いに賛同する。

事業者 スピードのある試合の全てをリアルタイムに放送で伝えることは困難が想定されていたところであり、アナウンサーには試合会場の雰囲気が十分に伝えられればいい、という指示を出していた。

委員 アナウンサーには、もう少しスピード感や高揚感を出してもらった方がよかったのではないかな。放送全体としては、会場内の歓声や音楽など、盛り上がっている様子やヒート感といったものが伝わってきた。

委員 バスケットボールは、野球放送などとスピード感が違うので、全てのプレーを実況するのはそもそも困難であり、逆にキッチリと実況するとリスナーの方が疲れてしまうのではないかな。私としては、アナウンスはこの感じでよかったのではないかなと思っており、試合会場の臨場感は十分に伝わったものと考えている。

逆に、レポートがキッチリしすぎていて、全体の流れを止めてしまった感があり、試合の流れや場内の雰囲気と併せて高揚感のあるレポートをした方がよかったのではないか。

委員 初めてバスケットボールの生中継を聴いたが、全体として非常におもしろかった。

アナウンサーが一人であまりヒートアップしてしまうと聴きづらいと感じる人もいると思うので、この番組のアナウンサーは、声のトーンや話の流暢さなど、とても聴きやすく楽しかった。

番組のターゲットとしては、先ずバスケットボールのファンだと思うが、バスケットボールをあまり知らない人々も、興味を感じながら、聞きやすい番組ではなかったかと思う。

リアルタイムの中継でなくても試合の流れは十分に理解できたところであり、熱烈なファンからそれほどでもないリスナーまで、幅広いターゲットに対する放送としては、合格点が得られたのではないか。

地元のスポーツチームとメディアがスクラムを組んで、地域のスポーツを盛り上げていくことは大切なことである。

委員 放送が新しい試みにチャレンジする姿勢はすばらしいと感じた。

他局のスポーツ中継とのコンセプトの違い、例えば、試合の流れだけでなく、楽しめる番組として放送することを明確にしておけばリスナーもより楽しめるのではないか。

レポートの仕方も色々あると思うが、レポートの途中で場内から歓声が上がった場合などでは、話を中断してその状況を伝えることも必要ではなかったか。

委員 地域のスポーツを盛り上げていくためには、こうした番組の重要性をスポンサーに理解していただくことが重要であり、その努力を続けながら、今後も継続して行ってほしいと思う。

放送局として、試合の結果だけでなく、リスナーにバスケットボールに興味を持ってもらい、会場に行ってみたいという新たなファン層の拡大を目指すというコンセプトは、大変すばらしいことだと思う。

(以上)

### (3) その他

事業者から4月からの新番組などについて説明した。

### (4) 次回開催日程について

次回の開催を5月6日(木)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日  
なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日

(1) 放送 4月25日(日)午後7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内。

(2) 書面 本社事務所に備え置き。

(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内。

8 その他の参考事項  
なし